

アメリカの研究大学における大学院生のための図書館サービス

佐藤 歩 (成蹊大学図書館)

ayumi.sato@jim.seikei.ac.jp

1. 研究の背景と目的

1990年代以降、アメリカの研究大学の大学院教育に変化が見られるようになった¹⁾²⁾。大学院教育の変化にともなって、研究大学の図書館では大学院生に対するサービスについて課題の指摘や対策の提案が行われるようになり、大学院生に対するサービスが変化してきたことが報告されている³⁾。しかし、個々の大学での調査⁴⁾⁵⁾や特定のサービスに関する調査⁶⁾といった断片的な事例報告が多く、現段階では大学院生向けサービスを横断的に調査した研究が見られない。そのため、図書館が大学院生のためにどのようなサービスを提供しているか、全体的な傾向が判然としない。

本研究では、アメリカの研究大学において、大学院生のためにどのような図書館サービスが提供されているのかを調査し、網羅的に現状を明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

2014年8月から12月に、アメリカの研究大学の図書館のウェブサイト上で提供している情報に限定して調査を行った。調査対象は、北米研究図書館協会(Association of Research Libraries: ARL)⁷⁾に加盟しているアメリカの研究大学の図書館99館のうち、ウェブサイトに大学院生を対象としたサービスをまとめた形で表示している69館とした。

大学院生のためのサービスをどのように表示しているか、サービスは図書館もしくはその他の機関が提供しているのか、提供しているサービスに

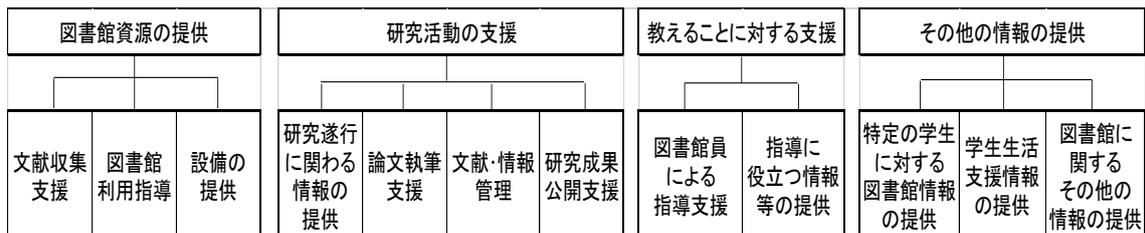
はどのようなものがあるか、を調査するために、各図書館のウェブサイトからこれらの情報を抽出し、サービスの構成、提供元、内容について検証した。

3. 結果

3.1 サービスの構成

サービスの構成を見るために、ウェブサイトの表示方法を分析した。調査対象69館のうち60館は、大学院生のためのサービスをいくつかは大別し、それぞれに見出しをつけ、階層化してページを構成するという形で掲載していた。多くは大学院生の活動領域に即して見出しをつけ、その下に個別のサービスのページを表示するという2層構造をとっていた。中には、活動領域をさらに細分して3層構造で表示しているところもあった。

60館がつけていた見出しは、ある程度共通性が見られたことから、これらを参考に、大学院生の活動領域に即してサービスを整理し、図書館の基本サービスである学習者のための「図書館資源の提供」、研究者としての側面を支援する「研究活動の支援」、指導者としての側面を支援する「教えることに対する支援」、上記以外の情報をまとめた「その他の情報の提供」の4つに大別した。さらに、それぞれの活動領域を細分する形で12の具体的な領域に分類し、その下に個別のサービスを対応させて、サービスの構成を整理した。第1図に示すように、学習者、研究者、指導者といった大学院生のさまざまな活動領域に即して、サービスを構成していることが明らかになった。



第1図 大学院生のためのサービスの構成

3.2 サービスの提供元

サービスの提供元は、ウェブサイトの URL の階層構造をたどることで判断し、図書館、学内他部署、学外の他の機関、の3つが見られた。図書館だけでは担いきれない専門的なサービスを、学内の他部署との連携や、学外の他の機関が提供するサービスをリンクする形で情報提供することで、大学院生の専門性の高い多様なニーズに応えていることが明らかになった。

3.3 各活動領域に対応したサービスの内容

(1) 図書館資源の提供

調査対象の 69 館すべてが「図書館資源の提供」のために何らかのサービスを提供していた。提供されているサービスを第 1 表に示す。基本的にはあらゆる利用者に共通のサービスの中で、学習者としての大学院生にとって有用な情報を提供していた。

「文献収集支援」では、学内だけでなく学外からも利用できるさまざまな媒体の文献収集に対応している。「図書館利用指導」では、多種類の図書館員への相談方法や、図書館利用に関するセルフトレーニング教材等を提供することで、図書館外からも利用できるように対応していることがわかる。「設備の提供」では、図書館が従来から持っている資源を活かし、大学院生専用のスペースの提供を重視していることが明らかになった。利用者をさらに限定し、博士候補生(Ph.D. Candidates)が学位論文執筆のために利用できる学習室を提供している図書館も見られた。図書館内に学習、研究に専念できるスペースを設けることで、大学院生が図書館に長時間滞在できる環境の整備を意識的に行っていることがわかる。

(2) 研究活動の支援

「研究活動の支援」は、69 館すべての図書館が何らかのサービスを提供していた。提供されているサービスを第 2 表に示す。研究準備から論文執筆を経て、文献や情報の管理方法や論文完成後の成果公開方法までの一連の流れに沿って、サービスを提供していることが明らかになった。これらのサービスは、研究活動を行っていくための道標のような役割を果たしているといえる。大学院生が

第 1 表 「図書館資源の提供」に関するサービス

具体的な領域	提供しているサービス	館数	比率 ¹⁾
文献収集支援	学外の図書館間の資料相互利用サービスの提供	58	84.1%
	学内で利用できる図書館リソース情報の提供	57	82.6%
	貸出サービスの提供	39	56.5%
	電子配信サービス(書籍の章や雑誌記事)の提供	37	53.6%
	購入リクエストフォームの提示	37	53.6%
	コースリザーブガイドの提供	28	40.6%
	学外から図書館リソースを利用する方法の提示	26	37.7%
	機関リポジトリから情報を収集する方法の提示	26	37.7%
	電子メールアラート・RSSフィード等の利用方法の提供	23	33.3%
	資料の学内配送サービスの提供	15	21.7%
	Google・Google Scholarの利用方法の提示	10	14.5%
	BrowZine(タブレット端末用雑誌閲覧ソフト)の紹介	6	8.7%
	オープンテキストの提供	3	4.3%
	政府情報の提供	3	4.3%
図書館利用指導	記事を永続的にリンクする方法の提示	2	2.9%
	図書館員への相談(対面、電子メール、電話、テキスト、チャット等)	49	71.0%
	図書館利用方法や情報リテラシー等に関するワークショップの提供	35	50.7%
	図書館利用方法のセルフトレーニング教材等の提供	26	37.7%
	図書館利用方法に関する授業形式の指導	7	10.1%
設備の提供	情報リテラシースキルを身につけるための情報提供	5	7.2%
	文献レビューに関する情報の提供	4	5.8%
	機器(PC等)の貸出、ワイヤレス接続等に関する情報提供	41	59.4%
	キャレルの提供	34	49.3%
	グループ学習室の提供	22	31.9%
	ロッカーの提供	21	30.4%
	個別学習室の提供	17	24.6%
	その他の大学院生用スペースの提供	10	14.5%
	学位論文執筆のための学習室の提供	10	14.5%
	リサーチコモンスの提供	8	11.6%
	書棚の提供	1	1.4%
	図書館内にある大学院生サービスコーナーの紹介	1	1.4%

注1 比率はそれぞれの館数を調査対象館数(69館)で割った数

学位論文を完成させるまでにとどまらず、その成果の公開方法や、公開に至るまでのさまざまな支援を提供していることから、大学院生にとって研究活動が重要であることを図書館が意識していることがわかる。

多くの図書館で、図書館員がそれぞれの専門分野別に研究に関するレファレンス相談に応じ、主題別にリサーチガイドを作成、提供するサービスが行われていた。図書館員の専門能力を前面に出すことで、研究に関する大学院生の専門性の高いニーズに対応している。

「研究活動の支援」にまとめられたサービスには、ウェブサイト上での情報共有のしやすさを活かし、

学内他部署だけでなく、他大学や他の機関が提供するサービスのページをリンクしているところも見られた。研究に関するさまざまな事柄に対処できるように、大学の垣根を越えて有用な情報を幅広く提供することで、研究者としての責任と自覚を促していることがわかる。

第2表「研究活動の支援」に関するサービス

具体的な領域	提供しているサービス	館数	比率 ¹
研究遂行に関わる情報の提供	研究に関する専門的なレファレンス相談	60	87.0%
	主題別リサーチガイドの提供	50	72.5%
	研究資金調達のためのガイドの提供	22	31.9%
	デジタル資料の利用指導・相談	18	26.1%
	研究プロセスに関する情報提供や指導	14	20.3%
	研究助成金申請書類の書き方に関する情報、ワークショップ等の提供	9	13.0%
	専門家や共同研究者を見つけるためのネットワークツールの紹介	5	7.2%
	研究倫理に関する情報の提供	5	7.2%
	大学院生の研究トラブルに関する相談	3	4.3%
	教員や大学院生が利用できるネットワーク上の学習機会の提供	2	2.9%
論文執筆支援	論文の検索方法の紹介	42	60.9%
	ライティングセンターの情報の提供	21	30.4%
	論文の書き方の手順・ヒント・ツール等の情報提供	17	24.6%
	論文の書き方の指導	6	8.7%
	論文執筆計画のための計算表の提供	3	4.3%
文献・情報管理	文献管理ツールの紹介と使用方法に関する情報の提供	56	81.2%
	引用スタイルの紹介	34	49.3%
	データの研究利用に関する情報提供・相談	28	40.6%
	データ管理計画書の書き方指導、データ管理に関する情報の提供	20	29.0%
	インパクトファクター・引用分析に関する情報の提供	17	24.6%
	剽窃・盗作回避方法に関する情報提供や指導	17	24.6%
	Citation Linker の提供	6	8.7%
	大学院生のためのインターンシッププログラムの提供	1	1.4%
研究成果公開支援	著作権・フェアユースに関する情報の提供	40	58.0%
	オープンアクセス(OA)・学術出版に関する情報の提供	34	49.3%
	電子学位論文(ETD)の提出方法	29	42.0%
	著者の権利に関する情報の提供	13	18.8%
	APC支払いのための資金提供等に関する情報の提供	7	10.1%
	プレゼンテーションに関する情報や指導	4	5.8%
	デジタルオブジェクト識別子(DOI)に関する情報提供	4	5.8%
	論文製本サービス	4	5.8%
	データ等の研究成果を公開するためのツールの提供、公開方法に関する支援	3	4.3%
	研究者IDに関する情報の提供	1	1.4%

注1 比率はそれぞれの館数を調査対象館数(69館)で割った数

(3) 教えることに対する支援

「教えることに対する支援」は、60館(87.0%)が何らかのサービスを提供していた。提供されている

サービスを第3表に示す。これらはティーチングアシスタント(TA)やインストラクター等指導者として活動する大学院生と教員を対象にしたサービスである。教員のみを対象としたサービスを掲載しているところもあり、大学院生を将来の教員として意識してサービスを提供していることが明らかになった。

「図書館員による指導支援」にまとめられたサービスからは、指導者としての大学院生や教員に対して、図書館員が授業準備等に関する指導を行っていることが明らかになった。図書館員は専門能力の高さに加えて、指導する能力も求められていることがわかる。教材作成に関する技術的な支援については、専門の図書館員が対応するところや、学内の専門の部署にリンクする形で対応する図書館も見られた。

第3表「教えることに対する支援」に関するサービス

具体的な領域	提供しているサービス	館数	比率 ¹
図書館員による指導支援	教員、TA、インストラクターに対する授業支援	35	50.7%
	教員、TAに対する図書館指導サービスの提供	29	42.0%
	デジタル機材やリソースに関する技術支援	22	31.9%
	授業支援システムの授業利用に関する情報提供や指導	9	13.0%
	大学院生に対する指導に関するトレーニングの提供	3	4.3%
指導に役立つ情報等の提供	教員・インストラクターのためのコースリザーブガイドの提供	46	66.7%
	教員・TAのための情報リテラシーガイドの提供	32	46.4%
	図書館指導クラスの申込みフォームの提示	32	46.4%
	教員・TAのための著作権等に関する情報の提供	25	36.2%
	教員が貸出手続きの代理権限を大学院生等に付与できるサービスの提供	20	29.0%
	教育支援システムの利用方法の紹介	5	7.2%
	授業で利用できるメディア資料の貸出サービスの提供	4	5.8%
	大学院生への指導機会の提供	1	1.4%

注1 比率はそれぞれの館数を調査対象館数(69館)で割った数

(4) その他の情報の提供

大学院生のためのサービスとして提供しているものの中に、(1)から(3)のどの支援にも当てはまらない情報を提供している図書館が43館(62.3%)あった。サービスを第4表に示す。これらのサービスは、大学院生の多様性に対応するものであり、大学院生が学生生活を送るうえで有用な情報入手する可能性を広げるために、図書館サイトを通じてさまざまな情報を提供していることが明らかになった。

すべての利用者を対象としたものが多い中、「学

生生活支援情報の提供」にまとめたサービスには、大学院生のための情報が見られた。障害を持つ学生や働きながら学ぶ遠隔教育学生といった、特定の学生が図書館を利用する際に役立つ情報の提供から、大学院生の多様な属性に対応していることがわかる。学問以外のキャリアルートを考えるための就職支援に関する情報や、奨学金や財政援助に関する情報等は、図書館サービスには直接関わらないが、学生生活に必要な情報として、学内他部署が提供するサービスのページをリンクする形で掲載している。

第4表「その他の情報の提供」に関するサービス

具体的な領域	提供しているサービス	館数	比率 ¹
特定の学生に対する図書館情報の提供	障害を持つ学生のための情報の提供	19	27.5%
	遠隔教育学生のための情報の提供	12	17.4%
	留学生のための情報の提供	4	5.8%
	海外の留学先から利用可能なサービスの情報の提供	1	1.4%
学生生活支援情報の提供	就職支援に関する情報の提供	9	13.0%
	大学院サイトの紹介	6	8.7%
	大学や地域のサービス情報の提供	5	7.2%
	奨学金や財政援助に関する情報の提供	4	5.8%
	大学院生会サイトの紹介	2	2.9%
	研究や学生生活に役立つブログの紹介	2	2.9%
	LGBT学生のための情報の提供	2	2.9%
	子供を持つ学生のための情報の提供	1	1.4%
	大学のカウンセリングセンターの紹介	1	1.4%
図書館に関するその他の情報の提供	図書館評価送信フォームの提示	9	13.0%
	図書館主催のイベントや展示の紹介	3	4.3%
	図書館利用規則の提示	2	2.9%
	図書館での学生パートタイム雇用情報の提供	2	2.9%
	エッセイや論文のコンクールの開催案内	2	2.9%
	学術書以外の書籍等の利用案内	2	2.9%
	図書館学生諮問委員会の情報の提供	2	2.9%
	図書館への寄付依頼	2	2.9%
	図書館の蔵書管理方針の提示	1	1.4%

注1 比率はそれぞれの館数を調査対象館数(69館)で割った数

4. おわりに

大学図書館では、学習者、研究者、指導者といった大学院生の活動領域に即したサービスを提供しており、ウェブサイト上で階層化して表示していることが明らかになった。ウェブサイトは図書館サービスを知るための手段のひとつであることから、必要なサービスを見つけやすくするために、

図書館を利用する大学院生の視点からサービスを組み立てて提供している。図書館外の情報もリンクすることで、図書館サイトが大学院生の必要とする情報を中継するハブの役割を果たしている。

これらのサービスの提供には、図書館独自によるものだけでなく、さまざまな連携の形が見られる。連携は部署や組織との結びつきに限らない。図書館が独自に提供しているさまざまなサービスを組み合わせ、リサーチコモンズ等のスペースを活用して大学院生が求めるサービスをワンストップで提供するといった、図書館内での連携も見られる。また、図書館員が指導者となって大学院生を指導することや、教材やチュートリアル作成といった授業に関する支援を、教員と協同して行っている図書館もあり、教員との連携につながっている。今後、個々の図書館員が専門能力を向上させるだけでなく、多方面にわたってコミュニケーションをとり、図書館全体で大学院生の専門性の高いニーズに応えることによって、大学院教育のパートナーとして、図書館サービスの新たな領域がさらに広がっていくと考えられる。

注・引用文献

- 1) 江原武一. 転換期日本の大学改革：アメリカとの比較. 東信堂. 2010, 306p.
- 2) Wendler, Cathy. et al. The Path Forward: The future of graduate education in the United States. Educational Testing Service. 2010, 64p.
- 3) Covert-Vail, Lucinda; Collard, Scott. New Roles for New Times: Research library services for graduate students. Association of Research Libraries. 2012, 23p.
- 4) Marcus, Cecily. et al. NYU 21st century library project: Designing a research library of the future for New York University: Report of a study of faculty and graduate student needs for research and teaching. 2007, 57p.
- 5) University of Washington Libraries. Library directions: A newsletter of the University of Washington Libraries. 2007, vol. 17, no. 2, 10p.
- 6) Lewis, Vivian; Moulder, Cathy. Graduate student and faculty spaces and services: Spec Kit 308. Association of Research Libraries, 2008, 170p.
- 7) Association of Research Libraries. <http://www.arl.org>, (accessed 2015-10-25).